感謝のあいさつことば

―「ありがとう」と「すみません」について―

住　田　幾　子

はじめに

日本語の謝辞には、「ありがとう」という発想の表現と、「すまない」という発想の表現とがある。「すまない」の表現形式である「すみません」に対しては、謝辞としては奇妙であるとの発言も聞かれる。このことは、日本人の学生が英作文の際に「thank you」とすべきところを「I'm sorry」とした誤用例を生むことにもかかわっている。(注１）この英語教育上の問題点は、逆に、日本語教育上の問題ともなる。

ともあれ、現実には、「ありがとう」と「すみません」との両者の表現形式が存立しているのである。そこで、まず、日本語上の謝辞の実態調査を、女子学生を対象にして行なってみた。「感謝のあいさつことば」との名目を掲げた調査からは、

○ありがとう・ありがとうございます

○ごめんね・すみません・おそれいります・悪いね・ご迷惑をおかけしました

○どうも

○お手数かけました・お世話になりました

などに類する表現が得られた。あるいはまた、これらの組み合わせからなる表現もある。

この稿では、特に「ありがとう」と「すみません」の類に注目して、第一に「感謝の対象」、第二に「表現形式」、第三に「待遇表現」という視点から分析し、三者を総合させて、その実態を把握することにする。

調査の内容については、つぎのとおりである。

調査対象者　梅光女学院大学短期大学部日本文学科２年生（97名）

調査年月　1989年11月

調査項目　①どういう時に感謝のあいさつことばを述べるか。

②誰が、誰に対して礼を言うのか。

③その場面の、ひとまとまりの会話を記録する。

調査項目の①は、「感謝の対象」を知るためのものである。②については、「私」つまり女子学生自身の発話を、待遇表現上の見地からとらえたいとはかったものである。③からは、できるかぎり自然談話の中での謝辞の表現形式をとらえたいと考えた。

以下に、この調査の結果を分析・整理して記述する。

一、感　謝　表　現

「ありがとう」「ありがとうございます」に代表される感謝の表現形式をとりあげる。「ありがたい」という発想のものである。「ありがとう」に類する表現では、

・アリガトー。
・アリガト　ネ（ー）。
・イツモ　アリガトー。
・ドーモ　アリガトー。

などが得られた。また、「ありがとうございます」については、

・アリガトーゴザイマス。
・ドーモ　アリガトーゴザイマス。
・アリガトーゴザイマシタ。
・ドーモ　アリガトーゴザイマシタ。
・センジツワ（先日は）　アリガトーゴザイマシタ。

などがある。待遇表現上から見て、これらを「ありがとう」と「ありがとうございます」との二種にまとめ、両者を、ひとまず、感謝表現と呼ぶ。感謝表現に関する調査結果を一覧表にすると、〈表１〉のとおりとなる。〈表１参照〉

謝辞として、感謝表現である「ありがたい」という発想の表現形式のみが行われるの

〈表１〉

感謝の対象＼表現	ありがとうございます	ありがとう
励まされた時	アルバイト先の上司 伯母	友人
ほめられた時	受験した会社の面接官 年上の人	友人
見舞いのことばをかけられた時	見知らぬ人	友人
情報提供を受けた時	受験した会社の人事担当者 他大学の年上の人	友人
宅急便を届けてもらった時	業者の配達人	
バスを降りる時	運転手	
店で電話に出た時	客	
店で注文を受けた時	客	
店で客を送る時	客	

は、「感謝の対象」（注２）が、

(A)ことばに対する謝辞

(B)接客業に関する謝辞

の二つに限られていることがわかる。(A)については、「励まされた時」「ほめられた時」「見舞いのことばをかけられた時」「情報提供を受けた時」などの具体的な場面が報告されている。(B)については、接客業者に対する謝辞と、接客業者から客に対する謝辞とがある。具体的には、女子学生からの「宅急便を届けてもらった」業者の配達人に対しての謝辞、「バスを降りる時」の運転手に対しての謝辞などがある。また、女子学生のアルバイト先での「店で電話に出た時」「店で注文を受けた時」「店で客を送る時」などの謝辞がある。

つぎに、「ありがとうございます」と「ありがとう」という表現の差異について見ていこう。感謝の対象が「ことばに対する謝辞」である場合、「ありがとうございます」は、「アルバイト先の上司」「伯母」「受験した会社の面接官」「年上の人」「見知らぬ人」「受験した会社の人事担当者」「他大学の年上の人」などのように、目上に対してのものであり、「ありがとう」は、「友人」という対等の人間関係に対してのものである。このことから、「ありがとうございます」と「ありがとう」との使い分けは、待遇表現上の差異によってなされていることがわかる。

感謝の対象が「接客業に関する謝辞」である場合は、「ありがとうございます」のみが使われている。「ありがとうございます」は、業務用の謝辞としての機能を持つものでもある。

二、感謝表現と陳謝表現

謝辞として、「ありがとう」か「すみません」かのどちらかが使われている場合について見ていこう。「すまない」という発想の表現形式を、ひとまず陳謝表現と呼ぶ。

今回の調査から得られたもので、「ありがとう」の感謝表現と、「すみません」の陳謝表現との使い分けが見受けられる用例を一覧表にすると、〈表２〉のとおりとなる。〈表２参照〉

「感謝の対象」の覧を見ると、「電話のとりつぎ」「回覧板をまわす」「空席を勧める」「道を譲る」「戸を開ける」「エレベーターのボタンを押す」「落とし物を注意する」など、ほぼ、エチケットとして当たり前といった程度の行為を受けた場合となっている。

これらの場面ではたらく表現形式には、陳謝表現「すみません」と、感謝表現「ありがとう」とがある。「すみません」は、「友人の母親」「隣のおばさん」「先生」などと、待遇表現上、まずは既知の目上に対する謝辞である。また、未知の人に対しても、「年配の人」「年上の人」「中年の婦人」「見知らぬ中年女性」などのように年上、つまりは目上と見なしての謝辞となっている。一方、「ありがとう」は、「友人」とあるように対等の関係に対して、あるいは「弟」「子供」などの年下、つまり目下に対する謝辞となって

〈表2〉

表現 / 感謝の対象	すみません	ありがとう
電話をとりついでもらった時	友人の母親	
回覧板を持ってきてくれた時	隣のおばさん	子供
空席を勧められた時	年配の人	
席を譲ってもらった時	見知らぬ人	
戸口で道を譲られた時	年上の人	友人
戸を開けてくれた時	先生	弟
エレベーターのボタンを押してくれた時	中年の婦人	友人
落とし物などを注意してくれた時	レストランのウエイター 見知らぬ中年女性	友人

いる。

このことから、陳謝表現の「すみません」は、待遇表現上、目上に対するものであり、感謝表現の「ありがとう」は、対等あるいは目下に対するものであるという、両者の機能差が認められる。

〈表3〉は、「すみません」と「ありがとう」と「ありがとうございます」とが、同じ場面で使い分けられている用例の一覧表である。

〈表3〉

表現 / 感謝の対象	ありがとうございます	すみません	ありがとう
お茶などを出してもらった時	受験した会社の社員	先輩 友人の母親 アルバイト先の上司	母親

お茶やコーヒーなどを入れてもらったり、出してもらったりした時、あるいはジュースなどを出してもらった時の謝辞である。「ありがとうございます」は、待遇表現上、目上となる「受験した会社の社員」に対してのもの、「すみません」は、やはり目上の関係となる「先輩」「友人の母親」「アルバイト先の上司」に対するものである。「ありがとう」もまた、「母親」に対するものであるから、待遇上の人間関係は、目上である。したがって、この三者の使い分けは、単に目上・対等・目下ということでなされているわけではない。

三者の「目上」を比較してみると、「ありがとうございます」と「すみません」とでは、「公・私」の別があると考えられる。公的な人間関係としてとらえた場合の謝辞は「あり

がとうございます」となり、私的な人間関係の場合には「すみません」となっている。そして、「ありがとう」は、「家族」に対する謝辞となっている。

〈表２〉・〈表３〉とを合わせ見ると、陳謝表現「すみません」は、公的な場での謝辞ではなく、まずは、私的な場での謝辞であると言えよう。つぎに、「すみません」は、家族以外において、人間関係を目上としてとらえた時の謝辞であると言える。

感謝表現「ありがとう」は、まずは、家族に対する謝辞である。つぎには、家族以外の、対等あるいは目下に対する謝辞であると言えよう。

感謝表現「ありがとうございます」は、公的な関係としてとらえた際の謝辞でもある。これは、〈表１〉で見た「接客業に関する謝辞」が「ありがとうございます」であるのに通じるものであろう。

三、「陳謝＋感謝」の連文表現

「すみません」と「ありがとうございます」とが連文仕立てとなっている表現について見ていこう。〈表４参照〉

〈表４〉

表現 ／ 感謝の対象	すみません ＋ ありがとうございます	ごめんね ＋ ありがとう
受験した会社で部屋に案内してもらった時	社員	
広告の掲載を許可してもらった時	店主	
病気見舞いを受けた時	伯母	友人

陳謝表現「すみません」に加えて感謝表現「ありがとうございます」を言い添える連文表現が行なわれるのは、〈表４〉に掲げたように、「感謝の対象」が、「入社試験を受けた会社で部屋に案内してもらった時」「大学祭のパンフレットへの広告の掲載を許可してもらった時」「病気見舞いの来訪を受けた時」などの場合である。これまで見てきた感謝あるいは陳謝の単文の表現形式での「感謝の対象」と比較すると、恩恵を受けるがわから見た相手への「煩わせ」の程度に差異が認められる。

〈表２〉（「ありがとう」か「すみません」かのどちらかの単文表現）で見た感謝の対象は、相手に対して‘それほど煩わせてはいない’と判断されるものである。が、〈表４〉（「陳謝＋感謝」の連文表現）で見られる感謝の対象は、相手の行為に対して‘煩わせの度合が大きい’と判断されるものとなっている。とにかく相手を‘煩わせたな’と判断した際に、感謝表現に陳謝表現が添えられるのである。陳謝表現と感謝表現との連文仕立てによる謝辞には、感謝に加えて、相手の行為に対する「ねぎらい」の心情が感じとられる。

つまり、謝辞における陳謝表現は、「煩わせ」に対するねぎらいであると考えられる。

つぎに、「陳謝＋感謝」の連文表現の待遇法を見ることにする。用例に偏りがあるが、「受験した会社の社員」「広告主である店主」「伯母」などのように目上の関係と、「友人」というように対等の関係とに分けられる。目上に対しては、「すみません」と「ありがとうございます」との連文表現が行なわれ、対等に対しては、「ごめんね」と「ありがとう」との連文表現が行なわれている。

四、感謝表現か陳謝表現か「感謝＋陳謝」の連文表現

ここでは、次の五つの表現について、その表現上の機能差を見いだすことに努めたい。

①すみません＋ありがとうございます→「陳謝＋感謝」の連文表現
②すみません→陳謝表現
③ありがとう＋ごめんね→「感謝＋陳謝」の連文表現
④ごめんね→陳謝表現
⑤ありがとう→感謝表現

〈表5〉

感謝の対象 ＼ 表　現	自家用車でおくってもらった時	お金・物などをもらった時	落とした物を拾ってもらった時
① すみません ＋ ありがとうございます	年上の知人 アルバイト先の上司	隣のおばさん 母の友人	見知らぬ人
②すみません		親（交通費） 伯母	年上の知人 アルバイト先の上司 見知らぬ人
③ ありがとう ＋ ごめんね			友人(拾い集める) 子供(拾って届ける)
④ごめんね			友人（授業中）
⑤ありがとう	父親	親(誕生祝い) 友人	母親 友人 子供

〈表5〉には、①から⑤までの表現の使い分けが認められる三つの場合の謝辞の実態を掲げた。「ありがとう」（⑤）という感謝表現があり、また、「すみません」(②)・「ごめんね」（④）という陳謝表現があり、あるいはまた「すみません＋ありがとうございます」(①）と「ありがとう＋ごめんね」(③）という「感謝＋陳謝」の連文表現とがある。これらの五種類の表現が、待遇表現上の機能と、相手への煩わせの度合との組み合わせに

よって使用されているのである。

まず、「自家用車でおくってもらった時」の用例から見ていこう。「年上の知人」「アルバイト先の上司」などの目上に対しては、①の「すみません＋ありがとうございます」という感謝表現と陳謝表現との連文表現が行なわれている。家族の「父親」に対しては、⑤の「ありがとう」という感謝表現が行なわれている。

つぎに、「お金・物などをもらった時」の用例について見ていこう。この場合の「お金」とは「こづかい」が主なもので、他に「交通費」というのが１例ある。「物」については、「菓子など」「お土産」「誕生祝い」「音楽会のチケット」などがある。

「お土産」などの「物」をもらった場合、「隣のおばさん」「母の友人」などの目上に対しては、①の「すみません＋ありがとうございます」であり、「友人」という対等の関係に対しては、⑤の「ありがとう」（チケットをもらった時）である。

家族である「両親」から「誕生祝い」をもらった場合は、⑤の「ありがとう」である。が、同じく「親」からであっても、通学のための「交通費」をもらった時は、②の「すみません」になっている。自分の学費で親を煩わせているのだという心情が、⑤の「ありがとう」ではなく、②の「すみません」を選ばせていると考えられる。この「すみません」は、目上である「伯母」から「こづかい」をもらった時の謝辞ともなっている。

３番目の「落とした物を拾ってもらった時」について見ていこう。まず、⑤の「ありがとう」の用例では、家族である母親に拾ってもらった時のものがある。また、対等の関係の友人に対する例がある。あるいはまた、目下となる子供に対する例がある。

④の「ごめんね」は、授業中に消しゴムを落として友人に拾ってもらった時の謝辞の例である。友人ではあるが、授業中という状況の中で相手をより煩わせたと判断しての陳謝表現である。

②の「すみません」という陳謝表現が行なわれるのは、「年上の知人」「アルバイト先の上司」など、「既知」で目上に対する場合である。また、「未知」の主婦（年上）に財布を拾ってもらった時の用例もある。

③の「ありがとう＋ごめんね」という連文表現は、同級の友人が落とした鉛筆を拾い集めてくれた時の用例である。また、未知の子供（10才ぐらい）が落とした財布を拾って届けてくれた時の用例もある。相手が友人あるいは子供であっても、「拾い集める」「届けてくれる」という行為に対して、その労をねぎらう心情が、感謝表現に添えられた陳謝表現に感じとられる。

①の用例では、電車の中でカバンを落とした時、そばにいた見知らぬ女性(20才ぐらい)が拾ってくれたのに対する、

○あっ、どうもすみません。ありがとうございます。

というのがある。同じ年頃ではあるが、未知の人に対しては、対等の関係とみなした「ありがとう＋ごめんね」というのではなく、目上とみなした「すみません＋ありがとうございます」となっている。

ここで、③「ありがとう＋ごめんね」と、④「ごめんね」と、⑤「ありがとう」との三者の表現の差異について検討する。まず、⑤の「ありがとう」という単文の表現は、家族・対等・目下に対する通常の感謝表現であることがわかった。③の「ありがとう＋ごめんね」という連文表現は、この⑤「ありがとう」に「ごめんね」を添えたものである。単文表現「ありがとう」が行なわれる場合と連文表現「ありがとう＋ごめんね」が行なわれる場合とで異なる点は、相手への煩わせの程度の差である。煩わせの程度が大きくて、ただ単に「ありがとう」だけでは済まないと判断される状況において、「ごめんね」が添えられている。そして、④の「ごめんね」という単文表現が行なわれる状況は、⑤「ありがとう」の場合よりも煩わせの程度が大きく、しかしながら、③「ありがとう＋ごめんね」よりも小さいという中間のものである。この④「ごめんね」は、③「ありがとう＋ごめんね」が簡略化された表現であると考えられる。かたちとしては、「ごめんね」という陳謝の表現ではあるが、当然ながら、そこには略された感謝表現「ありがとう」が含まれているのである。④「ごめんね」は、謝辞として、⑤「ありがとう」・③「ありがとう＋ごめんね」とはまた別のはたらきをする表現であることがわかる。

②の「すみません」もまた、④「ごめんね」と同様に、①「すみません＋ありがとうございます」の簡略化された表現で、一つの機能を持つ表現であると考える。

おわりに

これまでに、日本語における感謝のあいさつことばについて、「ありがたい」という発想のものと、「すまない」という発想のものとの二つの表現を中心に、その実際の使用状況を、待遇上の機能と相手への煩わせの度合との観点から整理してみた。ここで、この調査から判明したことを一覧表にしてまとめてみたい。〈表６参照〉

山口県下関市域における、女子学生（19才～20才）を対象にしての調査からは、以上の結果が得られた。調査の範囲は限られているが、ほぼ、現代日本語の謝辞の実態を映しているものと考える。ここには、「ありがとうございます」「ありがとう」という感謝表現と、「すみません」「ごめんね」という陳謝表現とがあり、あるいはまた、両者の連合した表現がある。

これらの表現の使用状況から、日本語の謝辞には、まず、根底に「ありがとうございます」「ありがとう」ということばがあることがうかがえる。それは、〈表１〉で見たように、「ことばに対する謝辞」「接客業に関する謝辞」が、この二つの感謝表現であること、「家族」「友人」「子供」などに対する最も簡素な謝辞が「ありがとう」ということばであることなどから判断されるのである。ちなみに、子供の世界での謝辞を観察すると、やはり、「ありがとう」が専らである。陳謝表現の「すみません」「ごめんね」は、ことばによる恩恵を受けた時や業務用の謝辞ではなく、実際に何らかの相手の行為があった場合になされるものである。ねぎらいの気持ちがプラスアルファとして、感謝表現に添えられるのであろう。日本語における謝辞に、感謝表現と陳謝表現が存在するのは、以上の事情

〈表6〉

機能 ＼ 表現	待遇上・煩わせの程度		
	既知	未知	その他
ありがとうございます	目上	一般	公的
すみません ありがとうございます	目上	一般	
すみません	目上	一般	私的
ありがとう ごめんね	家族 対等 目下	子供	
ごめんね	家族 対等 目下	子供	
ありがとう	家族 対等 目下	子供	

によるものと推察する。

「ありがたい」の語源については、従来、「有ることが難い」と説かれている。『講座日本語の語彙9語誌Ⅰ』の「ありがたい」の項には、

> この語形は古くは「御礼のことば」としてではなく、「有難」の漢字の意義に象徴されるとおり「存在することが困難である」意、すなわち「存在することが非常に少ない」「めったにない」意を表わす語として存在していた。

とあり、さらに、

> 「ありがたし」の用法の中に「心」に対する用法が確認された。これは、感謝の気持ちを表わす「御礼のことば」として「ありがたし」が発展していく可能性を示すものと思われる。

ともある。「ありがたい」とは、相手の行為を「めったにない」ことと評価して、たたえるものであろう。「すまない」については、まだ明確な説は見当たらないが、『日本国語大辞典』（小学館）によれば、「すむ」の項に「済」「澄・清」などの漢字が当てられている。相手を煩わせたことに対して、自分の心がはれない、十分に意をつくしていないということであろうか。

特に、「すみません」については、『図説日本語』（後記）に、

お礼の表現は伝統的に「ありがとう」「ありがとうございます」だったが、近ごろは「すみません」という言い方が増えてきた。

とある。1963年の国立国語研究所の調査報告をもとにしているので、「近ごろ」とは、それ以前の時期を指している。また、「すみませんの用法について」（後記）によれば、

謝辞としての「すみません」は、大正時代か、昭和初年に誕生したのであろう

としている。いずれにしても、「すみません」の使用は、現在においてなお盛んであるのは確かなことである。

ところで、今回の調査での用例を整理していると、待遇上・煩わせの程度という観点とは別に、談話上の機能についても考慮する必要があることに気づいた。「ありがとうございます」という表現には、

○先日は、どうも、ありがとうございました。

などと、出会いがしらのあいさつことばとしての用例がある。やはり、謝辞の機能を果たすものではあるが、この場合、同時に、談話の切りだしの機能をも果たしていると考えられる。あるいはまた、別れぎわのあいさつことばとしてはたらく、

○まあ、どうも、ありがとうございました。

という用例も見られる。この場合は、謝辞の機能を果たしつつ、話しの全体をしめくくり、別辞としてはたらいている。つまりは、談話の切り上げの機能をも有しているのである。

このほかにも、出会いのあいさつことばとしての、

○こないだは、どうも、すみませんでした。

もある。また、電話を切り上げる際の、

○どうも、ありがとう。

という用例もある。しかし、この談話上の機能の実態を把握するためには、さらに、準備を整えなければならない。いまは、謝辞にかかわることの一端として気づきを述べるにとどめたい。

さらに、今後の課題として、「感謝のあいさつことば」と「詫びのあいさつことば」とを見合わせて考察しなければならないと考えている。

注１　伊佐（1989）に、感謝表現に関する日本人学生の英作文の誤用例の報告があり、その中に、日本語における発想法が原因と考えられるものが見受けられる。

注２　中田（1989）に、「感謝の対象」を分類したものがあり、何に対して感謝をするのかという視点について示唆を得た。

参考文献

奥山益朗編　1970　『あいさつ語辞典』（東京堂）「ありがとう」・「すまない」
松浦照子　1983　「ありがたい」（『講座日本語の語彙９語誌Ⅰ』明治書院）
柳田征司　1966　「大蔵流狂言に見える、お礼のことば『有難い』と『忝い』について」（『国語学』12月）
酒井良枝　1979　「『すみません』の用法について」（『昭和学院　国語国文12』）
宮島　外編　1982　『図説日本語』（角川書店）「『ありがとう』と『すみません』」
熊取谷哲夫　1988　「発話行為理論と談話行動から見た日本語の『詫び』と『感謝』」（広島大学教育学部紀要）
中田智子　1989　「発話行為としての陳謝と感謝―日英比較―」（『日本語教育』68号）
伊佐雅子　1989　「Discourse Analysis—Expressions of Gratitude in English by Native Speakers and Japanese Speakers—」（梅光語研談話会第二回発表　梅光女学院大学）